

漁海況月報

平成22年 3月 1日

No. 3

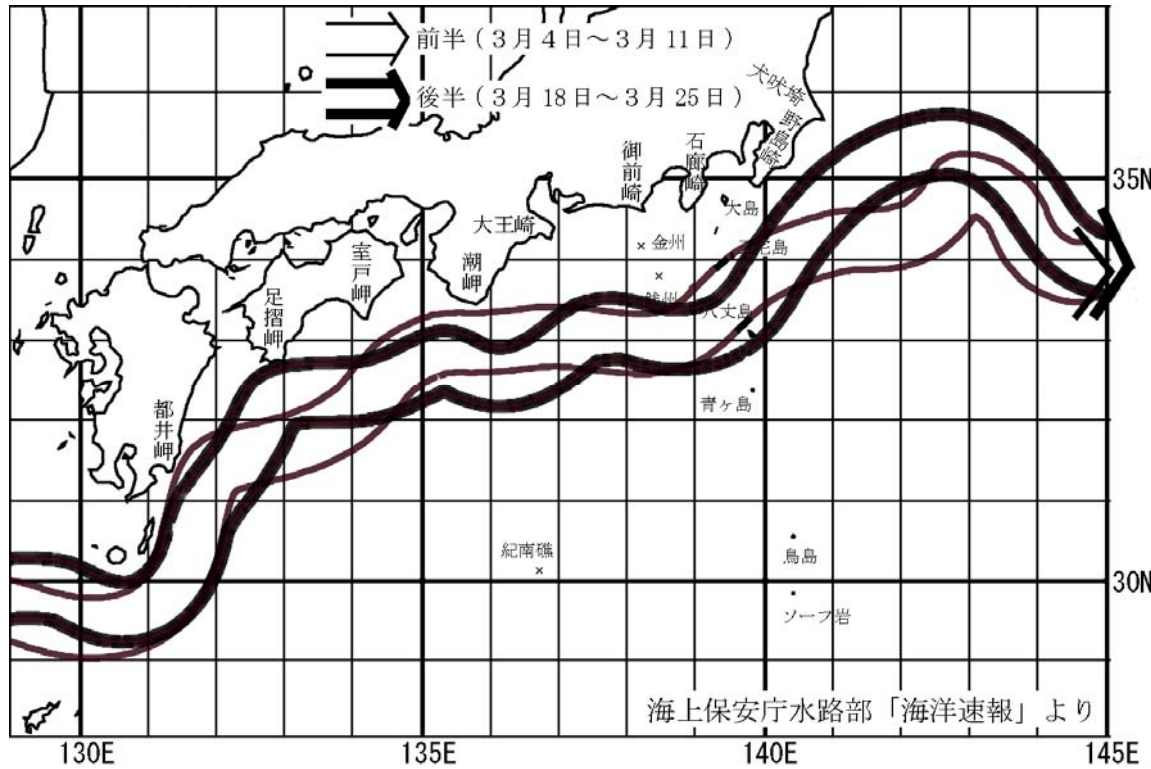
～3月31日

静岡県水産技術研究所

(電話 054-627-1815)

静岡県水産技術研究所 伊豆分場

(電話 0558-22-0835)



【黒潮流路】

前半の黒潮は、四国の足摺岬沖で離岸した後、潮岬沖を接岸傾向で流れ、遠州灘沖 33° N付近を東進した。その後、伊豆半島沖から北東に向かい、三宅島と八丈島の間を通り、房総半島沖を離岸傾向で流れた。

後半には、足摺岬沖の離岸が東進し四国の土佐湾沖から潮岬沖にかけて離岸傾向で流れ、潮岬沖では小蛇行が通過した。その後、遠州灘沖 33° N付近を小規模に蛇行しながら東進し、八丈島付近から北東に向かい房総半島沖を接岸傾向で流れた。なお、下旬後半には小蛇行の東進により御前崎沖で 33.5° N付近まで接岸した。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は、相模湾では 11～15°C 台、駿河湾の東部では 12～15°C 台、西部では 11～15°C 台で経過した。上旬、中旬は平年並み、下旬は平年よりも低めであった。黒潮変動に伴い中旬には伊豆半島沖から駿河湾沖へ、下旬には熊野灘から遠州灘へ、それぞれ 15°C 以上の暖水が波及したが、いずれも沿岸への影響はなかった。

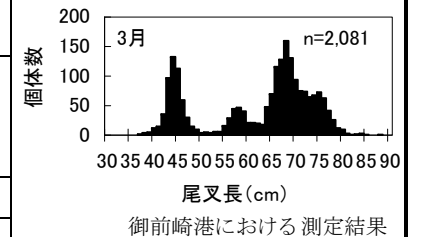
【竿釣カツオ】

3月の県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海竿釣り船によるカツオの水揚げ量は 218 トンで前年同期の 75% であった。魚価は 441 円/kg で、前年同期を下回った。沿岸竿釣り船は水揚げがなかった。

近海竿釣り船は、小笠原諸島周辺で特大（尾叉長 68cm モード）、特特大（尾叉長 75cm モード）、大・中（尾叉長 58cm モード）、小・極小（尾叉長 44cm モード）カツオを漁獲した。

竿釣りカツオ水揚げ量（近海、県内主要5港）

期間	水揚げ量 (トン)	水揚げ隻数	水揚げ/隻 (トン)	平均単価 (円/kg)
22年 3月上旬	87	5	17.4	433
中旬	45	5	9.0	564
下旬	86	9	9.6	385
22年 3月計	218	19	11.5	441
21年 3月計	290	26	11.2	527
20年 3月計	102	16	6.4	610



定地水温の旬平均値 (°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	13.7	15.0	14.4	14.5	14.7	14.2	13.1
	0.2	1.0	0.7	0.1	0.5	0.7	1.4
中旬	13.7	15.0	14.3	14.1	14.1	14.2	13.2
	-0.1	0.8	0.3	-0.7	-0.7	0.3	0.8
下旬	12.9	13.7	13.0	13.3	14.0	13.6	12.4
	-1.2	-0.8	-1.3	-1.9	-1.3	-0.7	-0.7
月	13.4	14.6	13.9	14.0	14.2	14.0	12.9
	-0.4	0.3	0.0	-0.8	-0.5	0.1	0.4

【定置網】

平成22年3月、伊豆半島東岸大型定置網8か統（伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚げ量は 351 トンで、操業がなかった赤石を除く 1 漁場当たり水揚げ量 50.1 トンは前年 50.0 トン（6 漁場）の 100%、平年値（昭和 57～平成 21 年）44.0 トンの 114% であった。

魚種別水揚げ量は、①カタクチイワシ 157.4 トン（A：前年同月比 140%、B：平年同月比 219%）②スルメイカ 63.8 トン（A：597%、B：309%）③ブリ 63.8 トン（A：9,291%、B：199%）④マアジ 29.5 トン（A：26%、B：30%）⑤マイワシ 16.8 トン（A：119%、B：35%）の順であった。

カタクチイワシは古網、北川中心に入網し、被鱗体長のモードは 12 cm であった。スルメイカは北川、谷津中心に入網し、昭和 57 年以降で最も多く漁獲され、外套背長のモードは 23 cm と前月より小型となった。ブリのうちぶり銘柄は、谷津、川奈、北川を中心に 5,139 本が入網し、尾叉長のモードは 76

cmにみられた。マアジは川奈、伊豆山を中心に漁獲されたが低調で、尾叉長のモードは2歳魚と考えられる28cmにみられた。マイワシは赤沢、古網中心に入網し、尾叉長は測定できなかった。

漁場別水揚量は、古網107トン(カタクチイワシ、マイワシ中心)、北川92トン(カタクチイワシ、スルメイカ中心)、川奈42トン(マアジ、カタクチイワシ、スルメイカ、ブリ中心)の順であった。

【サバたもすくい棒受網】

小川港には、たもすくい・棒受網によってマサバ109トン(前年同月比86%)、ゴマサバ388トン(前年同月比223%)が水揚げされ、1隻あたり水揚量はマサバ3.3トン/隻(前年同月比83%)、ゴマサバ11.8トン/隻(前年同月比219%)であった。平均単価は、マサバが260円/kgと前2年同月に比べ軟調、ゴマサバは79円/kgで前年同月(56円)、前月(61円)を上回った。

たもすくいの漁場は月前半にひょうたん瀬、月後半に三本に形成された。棒受網の漁場は、ほぼ月を通じ三本、三宅に形成された。マサバの魚体は前月よりやや小型となり、尾叉長33~34cmモードの3歳魚(2007年級群)が主体となった。ゴマサバは、30~32cmモードの3歳魚(2007年級群)、29cm以下の1歳魚(2009年級群)が主体となった。また、棒受網では27cmモードのオアカムロも混獲された。

小川港 サバ類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
22年3月上旬	7	76	3	7	1.0	10.8	824	157	ひょうたん瀬 三本
中旬	62	152	3	11	5.6	13.9	281	64	ひょうたん瀬 三本
下旬	40	160	4	15	2.7	10.6	125	56	ひょうたん瀬 三本
22年3月計	109	388	10	33	3.3	11.8	260	79	—
21年3月	127	174	13	32	4.0	5.4	405	56	ひょうたん瀬 大室岬、三本
20年3月	51	1,058	16	38	1.3	27.8	489	92	三本 三本 三本 三本

* 水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

【シラス船曳網】

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾が33kg、遠州灘が171kgであった。新居では操業は行われなかった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は82kgと前年同期(42kg)の198%、平年同期(過去5か年平均:215kg)の38%と前年同期を上回ったが、平年同期を大きく下回った。また、総水揚量も14.1トンで前年同期(5.8トン)の243%、平年同期(143.5トン)の10%と、前年同期を上回ったが、平年同期を大きく下回った。平均単価は810円/kgと平年同期(840円/kg)を下回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均漁獲量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	0.0	0	0	—	—
舞 阪	2.8	2	11	255	382
福 田	2.2	1	13	173	421
御前崎	5.4	4	37	146	1,031
吉 田	1.7	3	54	31	1,236
静 岡	1.9	3	56	35	898
平成22年3月計	14.1		171	82	810
平成21年3月計	5.8		139	42	1,049
平成20年3月計	379.8		844	415	572

【まき網】

小川港ではマイワシが176.6トンの水揚げで平年同期(24.7トン)の7.1倍であった。沼津港では、マイワシが199.1トンの水揚げで平年同期(39.2トン)の5.1倍であった。カタクチイワシの水揚げはなかった。静浦港では、マイワシが0.1トンの水揚げで平年同期(0.3トン)の45%であった。カタクチイワシの水揚げはなかった。伊東港ではマイワシの水揚げはなかった。

注)平年同期:過去5か年(2005~2009年)平均

【調査船の動向】

富士丸

3月 9日 回航(小川西側汐入岸壁) (1日間)
3月 17日 回航(焼津二期港) (1日間)

駿河丸

3月 1日 ~ 3月 2日 地先定線観測調査 (2日間)
3月 8日 ドック回航(東海造船) (1日間)
3月 26日 海上試運転・回航 (1日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と
関東・東海海況速報を見ることができます。

